



## p4cみやぎ12月研修会報告

### 第4回

### p4c みやぎ定例研修会（オンライン）

第4回 p4c みやぎ定例研修会が、12月7日(水)にオンラインで実施されました。

研修Ⅰでは、埼玉県和光市立第五小学校(麗澤大学大学院)の古見豪基先生からICTを活用してのp4cの実践をご紹介いただき、研修Ⅱでは、それを受けて参加者による情報交換が行われました。

“デジ・アナマネジメント”というこれからの教育にも繋がるキーワードで活発に意見交換が行われました。

#### 【研修Ⅰ】

話題提供：「**道徳教育におけるデジ・アナマネジメント** (p4c) アナログ対話& (Skymenu Cloud) デジタル～子供の主体性の育成を通して～」

講師：埼玉県和光市立第五小学校(麗澤大学大学院) 古見 豪基 先生

#### ・ICT活用について

ICT環境が整っていく中、手段が目的化するICT活用ではなく、子供の主体的な学びを実現させるために、どのようにICTを活用するかが今後の課題。授業実践を通じた学習効果のエビデンスが必要になってくる。

#### ・主体的・対話的で深い学びを生み出すために

道徳教育で自律的にICTを活用する実践として、子供の主体性を育むために適切な省察的思考による学習、行動が考えられる。そこでは直接的体験や間接的体験(バーチャル性デジタル仲介的体験)も重要である。

#### ・「デジ・アナマネジメント」について

ICT使用の目的として、問題解決の効率や質を最大化する、学習能力の向上や拡張を最大化するなどがある。学びの成果として自分にどのような力がつくかを考えた上で、場面ごとにデジタルとアナログを賢く使い分けていく力が必要となる。

(デジ・アナマネジメント)

#### ・教科等大主題学習

大主題学習は、学校教育目標や道徳の重点目標を踏まえた上で、それを具現化する体験の場を設定すると共に、その体験を基に道徳の授業を核としながら、各教科や特別活動と関連付けながら学んでいく学習である。例として道徳科の「手品師」を取り上げる。“「誠実な人」について様々な立場や考えからどういふものがよいか考えよう。”を大主題として、総合的な学習の時間、特別活動などと関連付け

て学習をしていく。この教材でのICTの活用は、反転学習の予習のところで、テーマについて自分の価値観を整理させるところである。そして、教材に入る前に「誠実」をテーマにp4cを行う。これにより子供の問題意識を広げる効果がある。また、“心の数値メーター”などのICT教材を活用し、お互いの心情を共有しながらp4cでの問いを立てる工夫もしている。

#### ・考察

ICTのメリットとデメリットを踏まえた上で、学習の中に対話の部分とデジタルの部分を効果的に取り入れるデジ・アナマネジメントは重要。それが、将来的には、探究を進める時に自律的にICTを使いこなす子供を育てる事にも繋がっていく。

### 【研修Ⅱ】 研修Ⅰを受けての協議と情報交換

#### 〈Aグループ〉

○小学校現場では、パソコン操作スキルの課題もあり、ICT活用については温度差がある。今日の実践発表を聞いてハートソートなど興味深いソフトの存在を知り、自分も取り組んでみたいと感じた。

○ICTと対話のマネジメントが大切という事を改めて痛感した。また、失敗を恐れず、子供たちにタブレットに触れる機会を十分に与え、経験を積ませることも大切だと思った。

○ICTにはデメリットもあるが、メリットを積極的に取り上げて実践している取組は素晴らしかった。

#### 〈Bグループ〉

○アナログでもICTでも、子どもたちと一緒にやっていく、一緒に考えることが大事。ファシリテーションは、伴走する意識が重要だと感じた。

○アナログ部分の良さを大切にしながら、対話時間を確保するためのICT活用は、これから必要。

○ICTで心情の可視化ができ便利だが、必ずしも答えを一つにまとめないp4cの良さを忘れたくない。

#### 〈Cグループ〉

○ICTでできること、ICTで生かされることはあるが、従来からの子供の発言を全体で確認することも大事であろう。

○デジタル、アナログどちらもメリットはある。子供が得意な方を選べるとよいが、そのことによって理解の違いにひずみが生じないようにしたい。

○つぶやきや迷っている表情は、顔を合わせないと分からないのではないか。

HP <http://p4c-miyagi.com/>

Mail [p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp](mailto:p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp)